

## 地域との繋がりを深める子ども食堂 初開催



ＪＡ筑紫那珂川支店女性部はこのほど、地域との繋がりを深めるために、ＪＡ管内で初めて子ども食堂「ちゃぐりん食堂」を開き、３８名の児童が参加しました。

両親の共働きにより自宅で子どもが１人で食事をする「孤食」が増え、社会問題となっています。孤食の子どもに食事を提供し、安心して過ごせる場所を設ける「子ども食堂」の取り組みが各地で拡大しています。ちゃぐりん食堂は、女性部員が子どもの孤食を解消に貢献したいという思いで、１年前から企画。女性部員は、地域にある子ども食堂の見学や、勉強会を重ね、今回の開催に至りました。

食堂で提供した食事は、女性部員が自宅で栽培した野菜を持ちよったもの。子ども達に那珂川産のヤーコンを使ったカレーや、大根やレタスなどの野菜サラダ、みかんゼリーをふるまいました。子ども達は、当日仲良くなった友達と一緒に「とてもおいしい」と笑顔を浮かべながら食事を楽しんでいました。その他にも、子ども向け情報誌「ちゃぐりん」の記事を活用した七草粥に使う七草の紹介や、レクレーションを行い交流を深めました。

食堂の渡辺章子代表は「子ども達のコミュニケーションが深まるのはとても大切なことです。今後は、地域の高齢者にも参加してもらい、世代間交流の場となるよう、取り組んでいきたいです」と意気込んでいました。食堂は、今後、小学生の夏休みや冬休みなどに合わせて開催予定です。

## 農機１２台初荷 安全第一に



ＪＡ筑紫は１月８日、筑紫野市のＪＡ本店で、平成３１年農機初荷出発式を行いました。購入した生産者の農作業が安全に行われるように祈願し、初荷を見送りました。

組合員で構成する農機情報員やＪＡ関係者など２８名が参加。真新しい田植え機やトラクターなど１２台の農機が、のぼりが飾られたトラックに積み、参加者の拍手に送られ、縁起物の搬入を心待ちにしている組合員のもとへ一斉に出発しました。

ＪＡの白水清博組合長は「農機を届けることで、組合員と第一線で接することができます。組合員の要望にすぐ応え、ＪＡの信頼に繋がるように頑張ってください」と話していました。

## 新成人を激励



JA筑紫は1月15日、本店で二十歳の門出を祝う「成人式」を行い、新成人の職員3人が参加しました。新成人に記念品を贈呈後、白水清博組合長が「向上心を持ってスキルを伸ばし、理性や知性を磨いて人生を切り開いてほしいです」と激励。新成人を代表して、春日支店の田村百花さんは「これからは成人として責任ある行動と、人を思いやる優しい気持ちを持って過ごしていきたいです」と抱負を述べ、新成人としての決意を新たにしました。

## 安徳支店・ゆめ畑那珂川店落成式



JA筑紫は1月15日、那珂川市松木で安徳支店とゆめ畑那珂川店落成式を行いました。

当日は、JA理事や地元評議員、ゆめ畑出荷者協議会、関係業者ら47名が参加。安徳支店のテープカットを行い、新しい店舗で営業を始めました。式典は、12月13日にテープカットを行った農産物直売所「ゆめ畑那珂川店」と合同で開催。安徳支店の真鍋和彦支店長とゆめ畑那珂川店の緒方一寿店舗長が決意表明を行いました。

安徳支店とゆめ畑那珂川店の新店舗は、平成30年7月から工事を開始。建物内は、全てLED照明を使用するなど、環境に配慮した造りになっています。

白水組合長は「これからもより一層、地域の方に親しみをもって利用していただきたいです。そのために役職員一同、尽力していきます」と挨拶しました。

## 料理で地元農産物と地域の食文化をPR



筑紫野市の女性農業者で構成する筑紫野市農業女性グループ協議会は1月16日、筑紫野市総合保健福祉センター カミーリヤで、第30回農業女性と消費者のつどいを開きました。筑紫野市在住の消費者28名が参加しました。

イベントは、生産者と消費者と一緒に料理をすることで、地元農産物の安全性と美味しさをを知ってもらい、地域の食文化を育むことが目的です。生産者は農産物の素材の味を活かした「生姜ご飯」「白ねぎとニンジンのドレッシング和え」など10種類の料理を準備。消費者は生産者に農産物の特徴などを聞きながら料理を行いました。

このイベントを心待ちにしていた消費者は「とても勉強になりました。家庭でもぜひ作ってみたいですよ」と笑顔で話していました。

## 気持ちの良い支店づくりを目指して



J A筑紫は1月17日に金融店舗28カ所で平成30年度店舗美化コンクールを行いました。来店者が、清潔で気持ちの良いと感じる環境を整備、継続できる体制づくりを職員全員で共有することが目的。職員の日頃の店舗美化に対する意欲の向上に繋がります。

審査は、店舗内・外、職員の身だしなみ、挨拶等7項目で計70点の点数を競います。審査員は、J Aの金融共済部部長をはじめ各課課長と推進課職員、J A福岡信連職員の計9名がつとめ、3班に分かれ審査を行いました。各店舗で工夫を凝らしたレイアウトなどが見られ、審査員は真剣な眼差しで、各項目を確認しました。

金融共済部推進課の八尋課長は「今後も、組合員や地域の利用者の皆さまに満足していただける環境を作り続けてほしいです」と話していました。



## 自己改革について理解深める



ＪＡ筑紫は１月２５日、ＪＡ本店で「平成３０年度組織リーダー研修会」を開きました。評議員や農事組合長、各組織の代表を務める組合員１９５名が参加しました。

広島大学大学院生物圏科学研究科の小林元助教授が「全国で展開されている自己改革の現状について」をテーマに講演。ＪＡが取り組む自己改革について学びました。参加した組合員は「地域になくはない存在のＪＡの未来について、より深く考えることができました」と話していました

## 女性部員と役職員が意見を交換



ＪＡ筑紫は１月２８日にＪＡ本店で、女性部と役職員の対話集会を開き、女性部員と理事、ＪＡ役職員３３名が出席しました。

女性部の三宅静代部長が、活動内容や現状を報告。部員からＪＡに対して、女性部活動やＪＡの取組みに対して意見や要望などを発表し、今後活かしていくために役員と活発に対話しました。

## 安定供給のために講習



ＪＡ筑紫は１月２９日と３０日に、大野城、太宰府、筑紫野、那珂川の４地区でゆめ畑野菜栽培講習会を開き、ＪＡ農産物直売所ゆめ畑の出荷者１１２名が参加しました。ＪＡ営農生活部農業振興課の山本幸彦園芸指導士が講師を務め、気象状況や農作物の現状の他、今後の管理について説明しました。

## 高品質な麦めざす



ＪＡ筑紫は、筑紫野市のＪＡ物流センターで、平成３１年産麦の中間管理講習会を開き、部会員や福岡普及指導センター、ＪＡ全農ふくれん、ＪＡ農産課職員ら３７名が参加しました。ＪＡ全農ふくれんや普及指導センター職員が、麦類情勢や麦の生育状況、今後の管理などを説明。

ＪＡ筑紫麦出荷者部会の久原暢部会長は「今年も１等Ａランク獲得及び契約数量達成できるように、中間管理の作業をしっかりと行いましょう」と呼びかけました。